

e-dream-s 通信

No. 19 発行：2002年1月14日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

- 目次
1. バカだけとエライ (代表理事 辻 荘一) -- p1
 2. 文明の交差点 (顧問 井川 好二) -- p2
 3. メシを食おう (副代表理事 中川 房代) -- p5
 4. 第6回理事会報告 (理事 田辺 恵美) -- p6
 5. タスクプロジェクト報告 (タスクプロジェクト事務局 小関 静枝) -- p7
 6. マレーシア&シンガポール ACROSS 夏期セミナー2002の企画
(e-dream-s 国際部 山田 昌子) -- p9
 7. マレーシア・シンガポールセミナーに向けて (e-dream-s 国際部 辰巳 ゆきえ) -- p11
 8. 写真アーカイブ業務委託について (理事 辻岡 尚子) -- p13
 9. お知らせ -- p14

バカだけとエライ

辻 荘 一

個人的な話で申し訳ないけれども、やっぱりマイクロソフトよりアップルなんですよ。むろん最初に使ったコンピュータがアップルだったから、と言うこともある。最初に慣れ親しんだものからは離れがたいものだ。でも、それだけじゃない。

家のコンピュータはアップルばかりだ。しかも3つも。4台目は職場の置き傘ならぬ置きコンピュータになっている。さらに、最近オークションで売り払った Laptop と人にやってしまったものも加えると、全部で6台も購入したことになる。

もちろん私は反マイクロソフトというわけじゃない。windows は優れたOSだ。職場ではほぼ全面的に windows を使っている。10年前ならいざ知らず、今ではどちらのOSも一長一短で、多くの人が、周りが windows 主体だからという理由でマイクロソフトを選ぶのは当然だ。

じゃあなぜわざわざアップルかと言えば、次に何をやるか分からないからだと思う。なんだか訳の分からない製品を出したりすることも一度や二度ではないが、たまに iMac のような、その斬新さから

さんざん他のメーカーから真似されたりするほどの大ヒットを飛ばす。最近、新 iMac が発表されたがこれも「なんだこれは」という形をしている。そこが、楽しい。

要するに、ただ安くて仕事の役に立つものをつくるというだけでは満足できないメーカーなんだな。失敗したり、バカにされたり、尊敬されたり、愛されたりしながら胸を張ってやっている感じがある。

e-dream-s も、真面目な社会貢献団体なんだけど、意外なことをやる、バカなこともするけれど、なかなか面白い斬新なこともやる、そしてやっている人間が胸張って楽しそうな NPO にしたいですね。

e-dream-s.come.true

文明の交差点：ラッフルズで考えたこと

井川好二

ターバンを巻いた、背の高いインド人のドアマンが、すかさず駆け寄ってタクシーのドアを開けてくれる。

「本日は、お食事のご利用でございましょうか？」

「そう、ランチを」

「ロビーを入られまして、向かって右が、メイン・ダイニングの Raffles Grill。左が、インド料理のバイキングで Tiffin Room になっております」

「なるほど」

「他に中華などもございますが、私のお薦めは、何と申しましても、インド料理のバイキングでございますね」

「ああ、そう」

シンガポールのラッフルズ・ホテルの玄関での会話である。1887年の創業で、近年全面改修が終わったばかりのラッフルズは、南国の太陽にコロニアル様式の建物が美しく映える。英国人作家 Somerset Maugham が、「東洋の神秘の象徴」 “the legendary symbol for ‘all the fables of the Exotic East’”、と呼んだホテルである。

ラッフルズ・ホテルの斜め向かいには、戦争記念公園 (War Memorial Park) になっている。雨上がりの緑の芝生が、気持ちよく広がり、ハワイを思わせる。

無論、「戦争」とは、第二次世界大戦を指し、日本軍が、真珠湾攻撃と連動して開始した馬來作戦により、シンガポールは1942年から終戦までの3年半、日本軍によって占領され、「昭南島」と改称。山下奉文陸軍大將が、英国軍のパーシバル大將とブキテマ高地において、「Yes か No か」と無条件降伏を迫った話は有名。日本軍により、中華系を中心に5万人のシンガポール人が虐殺された歴史を持つ。「戦争記念公園」には、「日本占領時期死難人民記念碑」が立っている。ラッフルズ・ホテルも、当時「昭南旅館」と呼ばれた。

年末に、インドネシア、マレーシア、シンガポールの東南アジア3カ国を、駆け足で旅して思うことは、その3カ国の類似性と独自性。3つの国を訪れたのだから、それぞれの独自性を感じるのは当たり前だが、これらの国が置かれた地理的、歴史的環境から、類似の文化や社会事情を見いだすのも、蓋し当然と云える。類似性と独自性が、縋い交ぜになっているのが、この地域の特徴とも云える。

東南アジアは、文明の交差点である。西や東や北から、多くの人間がやってきて、様々な文化、言語、宗教を伝えた。東南アジア各国は、それら全てを下敷きに、それぞれの多文化、多言語、多民族社会を形成しているわけだが、その「文明の交差点」としての多層構造が、各国の共通項と云える。シンガポールはそのパターンの一つ。

インド人のドアマンが開けてくれた重厚な扉から、吹き抜けになったラッフルズのロビーに入る。心地よくエアコンがかかっているのだが、高い天井に取り付けられた大きなファンが、モームが宿泊していた植民地時代を思わせる。

ドアマンには悪いが、ランチはメイン・ダイニングの Raffles Grills でとることにする。その前に、有名な Writer's Bar で食前酒を一杯。日本軍がシンガポールへ侵攻する直前の1942年1月から2月、と云うから今からちょうど60年前、ラッフルズ・ホテルのバーテンダーは、マネージャーの指示に従って、酒蔵にあった大量のワイン、シャンペン、ブランデー、ウィスキーなどを、夜な夜な下水に流した。日本の軍人に飲ませないためであると、景山民夫もどこかで書いていた。

「何になさいますか？」

「じゃあ、ドライ・シェリーを」

「ティオ・ペペで、よろしゅうございますか？」

「もちろん」

インドからもたらされた米食は、今も東南アジアの食生活の基本である。ジャカルタでもペナンでも、「ナシ・ゴレン」と呼ばれる焼き飯が旨い。インドからは、ヒンズー教や仏教もやってきた。しかし、マレーシア、シンガポールでは、この2つ宗教の影響はあまり見られず、比較的新しいイスラム教の存在が顕著である。ちなみに、マレーシアは、イスラム教を国教とする。これらの宗教は全てインドを通してもたらされた。無論、今でもインド人が多く住んでいる。シンガポールでは、人口の約6%がインド系であるとい、「リトル・インディア」と呼ばれるインド人街もある。

中国からは、たくさんの人々がやってきた。特に、明朝崩壊後（17世紀）には福建省、広東省、海南省辺りから、多くの人間が難民として東南アジアに流れてきた。彼らと一緒に儒教もやって来た。例えば、シンガポールの人口のうち、76%は中華系である。東南アジア全体の人口では、5%と云われる中華系だが、経済の50%以上を握っていると云われる。

ラッフルズ・ホテルはもちろん、英国東インド会社社員、Sir Thomas Stamford Raffles にちなんで命名された。1819年にシンガポール島に上陸し、この地の重要性を見抜いたラッフルズは、当時少数の中国人やマレー人などが住む小さな漁村しかなかったこの島を、ジョホールサルタンのサルタンから借り受ける。以降、シンガポールは、貿易・交通の拠点、英国植民地支配の要として、日本軍侵攻まで東南アジアの華と咲いた。

結構な食事を、申し分ないサービスでいただいてから、いつものようにエスプレッソを飲む。で、やはり、食後の一杯が欲しくなった。

「ポートをもらおうかな」

「お客様、ちょうど良いタイミングで、ロシアのポートが入荷いたしております...」

「ロシアのポート？」

「私も、最初はどうかと思いましたが、一口いただきますと、もう、一目惚れでござ

います」

「ほお」

「きっと、お気に召すと思いますが」

ソムリエに薦められるまま、ロシア産のポートを飲む。美味しい。食事中に飲んだキャンティ・クラシコとポートが、心地よく酔いを誘う。

酔った頭で、ペナンで訪れたマレー人家族を思い出す。団欒の中、一家の当主である老人が、急に日本の歌を歌い出した。小学校で習ったと云う「愛国行進曲」（作詞：森川 幸雄、作曲：瀬戸口 藤吉）である。

見よ東海の空あけて

旭日（きょくじつ）高く輝けば

天地の正気（せいき）澁刺（はつらつ）と

希望は躍る大八洲（おおやしま）

おお晴朗の朝雲に

聳（そび）ゆる富士の姿こそ

金甌（きんおう）無欠揺るぎなき

わが日本の誇りなれ

日本人が来たので、日本の歌を歌ってやろうと云う意図だと思う。日本軍や日本人に特別の感情があ

e-dream-s 通信 2002.1 No.5

ってのことではない。ただ、自分が昔習った歌を、今でも歌えるのが嬉しいと云う感じである。ただどどしくはあるし、記憶もとぎれとぎれで、本人が歌詞の意味を理解しているとも思えない。しかし、この歌を聞いている日本人の私の心境は複雑であった。

ポートを何杯か飲んで酔いは回るが、頭の中ではその歌がよりはっきり聞こえている。

この一月、日本はシンガポールと自由貿易協定を結び、より緊密な友好関係に入ると云う。ASEAN 全体との協調も、新しい段階へ入って行く。この文明の交差点で、新しい関係を築いていくことが、今必要である。その新しい関係は、NPO の舞台でなければならない。(Monday, January 14, 2002)

メシを食おう！

中 川 房 代

「地震だ！」

「このくらいなら大丈夫。ダンスから離れて！」

明け方に起きた地震は、私が体験した中でも最も強く、長く間揺れ続けた。1995年の「阪神・淡路大震災」である。

神戸に住む夫の両親は、自宅が半壊、近くの中学校で1ヶ月間の避難所暮らしを余儀なくされた。大阪に住む私たちは、バックパックにペットボトルの水やら食料を詰め、電車で西宮まで行き、それから先は口にハンカチを当てながら何時間もかけて歩いた。あの時の様変わりしてしまった光景と明るく活動する多くのボランティアの姿は、埃っぽい空気の臭いを伴って、今も強烈に私の頭の中に焼き付いている。

あれから7年。今年も1月17日が近づいてきた。“ボランティア”や“NPO”が身近なものとして感じられるようになったきっかけはこの阪神大震災だと言われる。事実、多くの人たちがボランティアとして働き、その後の“NPO法”の成立を支え、5,000以上もの法人が誕生することとなった。

2002年を迎え、NPOやe-dream-sの発展に明るい未来を見せてくれる2つの例を紹介しよう。

1つめ。私が今興味を持っているのは、アフガニスタンの支援でも活躍している「ジャパン・プラットフォーム・フォーラム」である。(「e-dream-s 通信・11月号」新聞記事参照) NGO(非政府組織)と外務省、経団連を中心とする緊急人道支援のための組織で、1999年に大学や民間財団、メディア、企業、国連

機関も参加して設立され、日本では例のない 21 世紀型のプラットフォームとして注目されている。成功の要因は、様々な団体が組織の枠を超えて連携し、イコール・パートナーシップを確保し、国益 e-dream-s 通信 2002.1 No.6 に引きづられない工夫をしたことや NGO の加盟資格の厳格さによって信頼度を高めたことによる、のだそうだ。（「甦れニッポン人」 日本経済新聞 2002 年 1 月 1 日）

2 つめ。大阪の話で申し訳ないが、4 月に大阪市福島区に「大阪 NPO プラザ」がオープンする。NPO 団体の事務所機能の場を提供する貸インキュベーションブース、NPO 支援や情報交流のためのスペース、印刷・作業・会議のためのスペース、を提供するというものだ。貸しブースは、光熱費やインターネット利用料も含んで月額 16,000 円！ちょっといい話（！）ではないか。

私たちが事務所が欲しい。大規模な事業も展開したいし、専従スタッフも欲しい。人も雇いたい。そうするためには、東京書籍との事業だけでなく、今後も継続して事業収入を上げていくことが必要だ。「NPO プラザ」の貸ブースは原則 3 年を最大期限にする予定だそうなので、3 年後 e-dream-s の事務所をそこに持って活動していくのもいいのでは、と思う。他の NPO と交流する中で新たな事業の可能性も追求してみたい。NPO をやっている以上、やはり「NPO でメシが食える」ようにするのも、1 つの目標である。

“タスク療乱”も後半戦に突入。ここからメシの食える事業がどんどんでてくることを期待したい。

第 6 回理事会報告 理事 田辺 恵美

去る 2002 年 1 月 4 日午後 8 時 15 分～9 時 15 分まで、ハイアットリージェンシー大阪にて、理事会が開催されました。以下、報告と承認された議案です。

1、報告 2001 年 4 月～2001 年 12 月までの活動の概要報告

(a) ACROSS 英国セミナー（藤沢）

8 月 4 日～11 日、40 名参加。アクロス発音訓練 2 日、タスクの実施、スピーチの野外発表などのプログラムを実施。赤字はアクロス会計より補てん。

(b) NEWS A の CD-ROM 制作事業（飯田）

担当者以外で 3 名に協力してもらう。作業の協力をお願いしたい。

(c) 写真アーカイブ事業（辻）

写真資料制作の業務委託について 基本的なデータをもとに写真のコメントを作成する業務。インターネット上で求人をし、問い合わせ 20 名。うち 1 名に絞る。まずは、100 枚依頼する。現在、アーカイブのサイトの 666 枚の写真データがある。4 月には 3000 枚を目標としているので、タスクプロジェクトで収集を進めてほしい。

(d) タスク進捗状況（小関）

(e) パイロット版パンフレット作成（辻）

シンガポール・マレーシア下見に向けてパンフレットを作成。英語版、日本語版、各

100枚ずつ。

2、議案

第1号議案 国際部、およびインターネット部の立ち上げ承認の件（辻）

国際部はアクロスから委託をうけて海外ツアーや合宿の企画を行う。

インターネット部は外部とのコミュニケーションをとる。→承認

第2号議案 アクロス 2002年夏研修企画業務委託受注

計画承認の件（辻） 委託を受けて収益事業として進める。→承認

マレーシア・シンガポール現地視察報告（山田）

タスクプロジェクト報告

事務局 小関 静枝

11月よりスタートしましたタスクの報告をまとめました。2ヶ月たちましたが具体的に動きが見え始め、今後の進み方が楽しみです。報告のなかったグループは次の機会によりしく願います。

1) 小学校の先生プロジェクト

2)

東京（富永、阿部、石黒、大竹、塩脇、志村）

（富永先生よりの報告）

娘（小2）の小学校の国語の授業で「スーホの白い馬」を冬休み直前の授業でやることがわかり、アーカイブの紹介をしたところ、早速開いてくださり、今後、国際理解の授業でぜひ利用したいとのことでした。このようなことを足がかりにして、調査（アンケートを含めて）をすすめていければと考えています。

大阪（岡崎、稲川、薮）

報告はありません。

広島（道面）

（道面先生よりの報告）

○インタビュー：広島県廿日市市阿品台東小学校 岡本紀美子校長

○内 容：実際にaglanceのHPを見てもらい、意見を聞いた。

①小学校では、具体的に実物或いは写真を見せることで児童の理解が助けられるので、このようなサイトは役に立つものと思われる。

②写真については、対処物がもっと大きいほうが良い。

③今HP上にある写真については、各教科で利用できるものが多い。

（例）社会科（モンゴルの子供たちの生活紹介）

④今後、欲しい写真

（例）・家庭科（世界の味めぐり。ジャガイモを使った各国の料理。できれば、レシピ付きで）

- ・算数（日本の「九九」にあたるものはあるのか。足し算・引き算の習い方など）
- ・体育（授業風景。レクレーション的なものも含めて）

e-dream-s 通信 2002.1 No.8

・総合的な学習：

- 福祉（どんな種類のボランティア活動をしているのか、町のバリアフリーの工夫など）
- 環境（スーパーマーケットでの容器の工夫、ゴミの分別方法など）
- 英語（外国語としての英語を小学校でどのように学んでいるか）

- ・各国の子供達の一日の生活（家でのお手伝いなどの様子も）

⑤管理職として、教育環境（学校の施設設備）に関わる写真が欲しい。

（例）子供達のやすらぎの場所作り、掲示の工夫、机・イスなど

⑥保護者への啓蒙活動の資料として使える。

（例）地域が一体となったボランティア活動は、どのようなことができるのか。

子供の手伝いについて（各国の比較）

○ 成果と課題：

当初は、小学校の先生方にアンケートを予定していたが、実際に画像を見てもらいながらインタビューもしたほうがよいというアドバイスを得て、インタビューを行なった。アンケートという形よりも、画面を見ていろいろ話をする中で、小学校でのニーズが明らかになってきた。これからも、より多くの先生方に、対面式での調査を行ないたい。HPの使い勝手についても、詳しい意見を求めたい。

2) インターネットプロジェクト（小関、灰田、新谷、増田、吉本屋）

* 中学校の英語の教科書に沿った写真を集める。

海外のサイトを中心に教材として使える写真を集める。

（来年度より使用の教科書の内容から以下の分担で検索をはじめました）

灰田：アメリカ、Thanksgiving, Christmas 等の行事関係

新谷：イギリス（スコットランド、ウェールズ）、ナショナルトラスト運動

増田：オーストラリア、ニュージーランド、バリアフリーについて（国に関係なく）

吉本屋：カナダ、韓国、環境問題全般について、マザーテレサ関係

小関：中国、香港、トルコ、シンガポール、ケニア、沖縄

環境問題全般について

バリアフリーについて

* 以上の内容でいいサイトがありましたら教えてください。

道面先生の調査と重なるところもありいい写真を集めたいと思っています。

3) 写真クラブプロジェクト（前原、飯田、宮城、山本貴、内田）

* 日本の学校向け教材になる写真の収集

* 海外在住者で日本のことを知りたい人向けの写真の収集

以上の視点から写真の収集を行うことを計画しています。現在は各自が写真の収集に取りかかっています。

e-dream-s 通信 2002.1 No.9

前原先生よりの報告：カンボジア、モンゴルの写真を集めコメント制作中。

山本先生よりの報告：ALTに@aglanceを見てもらい、写真の提供を交渉中。

4) HP コンテンツを考えるプロジェクト（浅野、田辺、山本賢、丸野）

*e-dream-s 通信をもっと見やすく、興味のもてるものにする、e-dream-s の活動内容を紹介するページや、写真アーカイブの写真を紹介するページなどを新たに企画することに取り組みます。

（浅野先生よりの報告）

- ・HP 上の e-dream-s 通信を見やすいように改訂する・・・浅野
- ・e-dream-s の活動内容を伝えるページをつくる・・・田辺
- ・写真アーカイブの写真の利用例を紹介するページをつくる・・・丸野
- ・娯楽要素のあるページなどを企画する・・・山本

以上のように役割分担をしました。第6回理事会までに、それぞれ雛形をつくり、アンケートをとれるようにしたいと思っています。

5) リンクページの作成プロジェクト（木村、朴、山本賢治）

*リンクの中の単元学習のページを検索。

相互リンクの交渉を行います。

（具体的な報告はまだありません）

6) NPO団体訪問プロジェクト（岡田、佐藤）

*NPO団体を訪問し、まずHPの相互リンクの確認。

相手との交流、活動団体の調査をして今後合同で活動できる可能性はないか探ります。

（岡田先生の報告は e-dream-s 通信 1 1 月号で掲載されました。）

*先月の報告で阿部、内田先生のお名前がぬけておりました。大変失礼しました。

*1月の報告を月末によろしくお願いします。ひとまずの区切りは3月です。

残り3ヶ月を有効に使い、有意義なタスクにしていきましょう。

昨年12月22～29日、井川さん、藤沢さん、辰己さん、山田の4名でマレーシア&シンガポールに下見に行かせていただいた。これはACROSSからの請け負い事業。1月4日のe-dream-s理事会にて下見報告を、そして、ACROSS 冬合宿中の5日、ACROSS 夏期セミナーの企画提案をさせていただいた。現在は、ACROSSの会長河野さんを中心にこの提案について検討をさせていただいているところ。1月末には方向性が決まる予定だ。

今回の夏期セミナーも盛り沢山！あれもしたい！これもしたい！という欲張りな(?) 私たちに、現地で出会った人たちが協力してくださって、一層の拍車をかけたといっても過言ではないだろう。例えば、マレーシアに1年間留学された経験のある須賀さんによると、シンガポールの独立記念日のスタジアムで行われるパレードは素晴らしいそうだ。が、そのチケットは一般人が手に入れるのは難しい。私は、最初から無理だと諦めていた。須賀さんは、コミュニティクラブにお願いすると何とかなるかもと教えてくれた。が、ブキバトコミュニティクラブのペク氏によると数枚であれば手配できるが、それ以上は無理だという。そこに、Greenview Secondary Schoolの周(チュー)校長は教育省に話をしてチケットをとってあげようとおっしゃってくれた。本当にラッキーだ。

実際英語を使う機会も少なくないだろうし、non-native同志、共通点を感じたり、また異文化を肌で感じることも多いだろう。イスラムについてのフィールドワークを企画しようとしているのも見逃せない。下見で私たちが体験したように、イスラムの結婚式やその他のお祝いに参加することもあるかもしれない。ホームステイを通して、マレー系の人々や彼らの生活を生で知るのも面白い。・・・このように、数多くのプログラムを企画している。自画自賛と言われそうだが、どれも興味深く、すべてのプログラムに参加したいくらい。が、それは時間的に無理。だから、予定どおり計画が進めば、全員が同じプログラムを行うのではなく、複数プログラムを平行して進めることになる。小グループで実施するから、受身にはならない。自分たちのタスクプログラムとして計画段階から関わり、現地で文字どおり異文化間コミュニケーションができる。これも今回の夏期セミナーの目玉のひとつだと思っている。

とはいえ、1月末以降、私たちは、e-メールでコンタクトピープルと益々連絡を取り、計画を押し進めていくことになる。実際、勤務校の仕事が忙しくお返事を書く時間を捻出するのに苦労することもあるだろうし、e-メール交換が必ずしもスムーズにいかないかもしれない。既にコンタクトピープルの1人から間違っって可笑しいメールが送られて来てビックリ！ということもあった。が、これもまたなかなか出来ない経験(?)である。今後が楽しみだ。

今年は馬年。馬年は波瀾万丈の年になるという人もいるが、私は、あくまでも前向きにどんどん進みたい。e-dream-s 国際部も、私自身も「奔馬天翔」といければと願っている。

<e-dream-s 国際部からの企画提案>

第1日目 8月2日(金) 出国(大阪、東京) □ マレーシア・ペナンへ
第2日目 8月3日(土) マレーシア・ペナン:

e-dream-s 通信 2002.1 No.11

★合宿(1): 講演、ACROSS 発音訓練、及びその発表

第3日目 8月4日(日) マレーシア・ペナン:

★合宿(2): 講演、ACROSS 発音訓練、及びその発表

第4日目 8月5日(月) マレーシア・ペナン:

★学校訪問 (Convent Light Street 等)

★フィールドワーク

(トロピカル・フルーツ・ファーム見学、企業訪問等)

★ホームステイ

第5日目 8月6日(火) マレーシア・ペナン □ クアラルンプールへ

★プトラジャヤ(新首都)、サイバージャヤ見学

★フィールドワーク

(イスラム関係のフィールドワーク等)

★ホームステイ

第6日目 8月7日(水) マレーシア・クアラルンプール □ シンガポールへ

★講演、(フィールドワーク (Bukit Batok CC 等) 等)

第7日目 8月8日(木) シンガポール:

★Greenview Secondary School 訪問

(授業見学、翌日の独立記念日のお祝い行事等)

★ホームステイ(教員宅)

第8日目 8月9日(金) シンガポール:

★ホストファミリーと過ごす

★4:30pm - 8:30pm

独立記念日のパレード参加(スタジアム)

第9日目 8月10日(土) シンガポール:

★フィールドワーク等 (Bukit Batok CC 等)

のち、お別れパーティ (The Beaufort にて)

深夜便にて日本へ

第10日目 8月11日(日) 早朝、帰国(大阪、東京)

マレーシア&シンガポールセミナーに向けて

e-dream-s 国際部 辰己ゆきえ

「シンガポール楽しい！」

これがマレーシアシンガポールセミナーに向けての私の思いであった。日本からの多くの旅行者にと

ってそうであるように、私にとっても、シンガポールが主役でマレーシアはおまけの存在であった。昨年9月11日のテロ事件以来、世界の注目はアフガニスタンのタリバン、イスラム原理主義に注がれることになり、アクロスでもアフガニスタンやサウジアラビアの現状についての記事を用いての勉強会を持った。

e-dream-s 通信 2002.1 No.12

「サウジアラビアに行ってみたい・・・」

私の気持は多いにイスラムに傾いた。「次の勉強会はマレーシアのイスラム教についてしましょう」と誰かが発した時、私は黙っていたが、実は興奮状態であった。マレーシアがイスラム教の国であることを私はすっかり忘れていたのだ。

私の下見ツアーは12月15日の勉強会から始まった。マレーシアのバックグラウンドから、マレーシアのムスリムの約2000人の若者がタリバンとともに戦うためにアフガニスタンに向かっているということまで知ることができた。最初マレーシアはシンガポールのおまけであったのに、どうしてどうして、それからの一週間、検索語「マレーシア（スペース）イスラム」で始まるネットサーフィンに空き時間を充てることになり、そうしているうちに出発日がやってきた。

参加者にとって、異文化理解教育の一助になるようなプランをたてるため、何ができるかを探りに現地を訪れたわけである。最初の訪問地はペナン、現地のマレー系のタクシードライバーが1日かけて、自宅や妻の実家を含めて案内してくれた。夏にホームステイや、学校訪問のアレンジメントができるかどうかを尋ねると、「できる」とのこと。彼がペナンのニューコンタクトパーソン、アズリーさんである。

クアラルンプールで過ごしたのはクリスマスイブとクリスマスの日であった。25日は外交官エルディーンさんとその2人の友人とイタリア料理店でクリスマスディナー、ムスリムと日本人がクリスマスを祝う格好になってしまい、考え深い出来事であった。話がそれだが、その2人の友人がホームステイなど前向きに取り組んでくれそうである。それと私が今回し損ねている新首都プトラジャヤ訪問、これはプランから外せない。

「やっぱり今回のセミナーはマレーシアだ！マレーシアでホームステイも学校訪問もできるし、イスラムの勉強もできるし！」

おまけだったマレーシアが主役のシンガポールを押しつけ舞台の中央で歌い始めた。そしてシンガポールへ向かった。Greenview Secondary School でスカーフを頭にしている二人のムスリムの女性教員に出会った。私たちがセミナーで何をしたいのか、またイギリスセミナーではどのようなことをしたのかを聞き、熱心にメモをとっておられた。1人は英語教員であったが、「女性英語教員」というだけで、純粋にもっと話しがしたいと思った。英語教員の家でのホームステイや、授業参観、こちらが教壇に立つ体験授業などのプランが考えられそうである。

「やはりシンガポールも外せへんなあ・・・」

e-dream-s 通信 2002.1 No.13

そうして私の心は、もともとのマレーシア&シンガポールツアーに落ち着いたのである。下見でやりきれなかったこともあり、夏までにインターネットを多いに活用して、更なる下準備とプランの構築でセミナーを実施する。セミナーは参加者の皆さんが何とも言えない満足感を得るものになるであろう。皆様、お問い合わせの上、ふるってご参加ください！！

写真アーカイブ業務委託について

理事（副代表理事代行） 辻岡 尚子

1月13日（日）藤澤理事宅で、業務委託をお願いする山本美貴氏とお会いしました。山本氏ご自身も海外に行かれたことがあり、写真の提供をお願いできそうです。文章を書いていただくアーカイブの写真にも興味を持たれました。

イーDreamズ側は、辻代表理事、藤澤理事、前原氏（業務委託する写真の集約係）、辻岡の4名が集まり、写真アーカイブ事業の趣旨や、具体的な作業についてお話ししました。その後、文章作成に役立つだろうということで、まだ選定のすんでいない写真を選ぶ作業を見学していただきました。

その時確認した作業の流れです。

各会員

↓ (写真と資料を送付)

前原氏 (資料に不備がないか確認して、通し番号をつける)

↓ (写真と資料を送付)

山本氏 (資料と写真をみて、文章を作成し、エクセルで入力)

↓ (写真と資料を送付)

高力氏 (写真をスキャンして、文章と共にアーカイブに追加)

↓ (写真と資料を送付)

前原氏

↓ (写真と資料を返送)

各会員

資料として必要な項目：撮影者・撮影年、月・撮影場所（国名と都市名）

何の写真か、特記事項があれば尚良い。

初めて写真を提供して貰える人は、「写真の提供に関する確認書」（前原氏の手元にフォーマットあり）

に署名。

e-dream-s 通信 2002.1 No.14

お知らせ

「辻元清美・小沢福子 新春のつどい・2002」

e-dream-s 設立パーティにも来ていただき、NPO 設立にエールをおくっておられる辻元清美議員を囲む会が行われます。辻代表理事、辻岡副代表理事代行は参加しますが、会員の皆様も参加を希望される場合は、1月20日までに辻岡までご連絡下さい。(ntsujioaka@aol.com) これは、e-dream-s が特定の議員を支持するという意味ではありません。NPO を支援しようとしている議員の方とつながりを持っておくことも必要であると考えてのことです。

日時：2月16日(土) 15:00—17:30

会場：高槻現代劇場3階会議室 (JR「高槻」駅、阪急「高槻市」駅下車)

会費：3,000円(軽食、飲み物付)

主催：辻元清美応援団、小沢福子後援会

1/20(日) NPO 研究フォーラム例会

*日時・内容：14:00□17:10 「研究報告」

*場所：豊中市待兼山町1-31 大阪大学大学院国際公共政策研究科(OSIPP)棟6階会議室(阪急宝塚線石橋駅から徒歩15分)

*参加費：NPO 研究フォーラム年会費：5,000円。1回ごとの参加可1回：1000円(各回当日お支払い)

*申込み問合せ：NPO 研究フォーラム 事務局：大阪大学大学院国際公共政策研究科山内研究室
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-31

Tel 06-6850-5643 Fax 06-6850-5643

E-mail : kamimura@osipp.osaka-u.ac.jp

URL : <http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/janpara/forum/forum.html>

<助成金・資金>

永和信用金庫 ; 「えいわ NPO ローン」

*対象事業： 大阪府から「特定非営利活動法人」の認証を受け、かつ主たる事務所が当銀行の営業
e-dream-s 通信 2002.1 No.15

店エリアにある法人

*資金使途： 法人設立後の運転資金及び設備資金

*融資金額： 1法人最高300万円以内

*融資期間： 手付貸付：最長6ヶ月以内 証書貸付：最長5年以内（据置6ヶ月可）

*返済方法： 手形貸付：期日一括返済 証書貸付：元利均等分割返済

*利率： いづれも年2.0%（固定金利）

*担保： 不要

*保証人： 連帯保証人2名（内1名は法人代表者）

*必要書類：(1)定款 (2)法人登記簿謄本 (3)事業計画書・収支予算書 (4)資金使途確認書類 (5)

その他金庫が必要と認めたもの

*募集期間： 期間限定なし・随時受付

*問合せ： 永和信用金庫 総合研究室 担当：高瀬・秋山

大阪市浪速区日本橋 4-7-20 Tel:06-6633-1180

社会福祉事業並びに研究助成応募□三菱財団

*対象事業・研究：

(1)現行制度上、公の援助を受け難い、開拓的ないし実験的な社会福祉を目的とする民間の事業（原則として法人に限る）

(2)開拓的ないし実験的な社会福祉に関する科学的調査研究（個人・法人等いずれも可）

*対象団体：日本国内において事業ないし研究の継続点を有する者（国籍等は不問）、営利目的の企業等並びにその関係者は対象外。

*助成金額：総額9千万円（採択予定件数約20件程度）

*応募期間：2002年1月8日～1月23日必着

*申し込み申請書は下記ホームページよりダウンロード。もしくは、財団事務局宛「宛先記入済みの返信用角2（A4サイズ）封筒に、140円切手貼付」の上郵送請求。

*申込書提出先・問合せ：財団法人三菱財団事務局

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-5-2（三菱ビル15階）

Tel：03-3214-5754 Fax：03-3215-7168

URL：http://www.dias.ne.jp/m_zaidan/mzd700j.htm

第3回社会貢献基金助成□（社団）全日本冠婚葬祭互助協会

この基金は、地域の種々の災害の救済、社会福祉事業、環境保全事業、国際協力など社会貢献活動を

行う各種団体等への助成、並びに社会貢献に資する調査・研究を目的とした事業に対する助成を行い、
以て日本の生活文化と地域社会の発展に寄与することを目的としています。

e-dream-s 通信 2002.1 No.16

***対象団体：**

法人格は問いません。非営利組織又は大学、研究機関（個人も可）で、募集する助成対象事業の趣旨に合致する事業を行おうとしている団体等

***対象事業：**

(1)研究助成事業：社会貢献に資する調査研究。テーマ「婚礼（結婚式）の在り方や歴史など儀式文化の調査研究」の趣旨に合致する事業。

(4)児童福祉事業：保護者等が死亡又は著しい後遺障害のため働けなくなった家庭の児童、不登校の児童を対象とした支援・慰問活動、その他児童の健全育成等に関するボランティア活動。

(6)国際協力・交流事業：開発途上地域、紛争地、被災地における、医療・食料・物資援助、教材・学校建設など人材育成を目的とした国際協力・支援活動。国際交流を目的とする事業

*助成金額：総額 1000 万円、一件当たり 200 万円を上限。

*助成対象経費：申請する団体等の常勤スタッフの人件費といった経常的経費は対象となりません。事業に直接必要な経費のみが対象となります。

*締切：2002 年 1 月 31 日（必着）

*提出書類送付先：(社団) 全日本冠婚葬祭互助協会事務局 社会貢献基金助成公募受付係
〒105□0001 東京都港区虎ノ門 5□13□1 40 森ビル 4F

*問合せ：Tel:03-3433-4415 Fax:03-3435-0880

E-mail : kankonsousai@zengokyo.or.jp

URL: <http://www.cjn.or.jp/gojokai/>